

特定非営利活動法人
全国ことばを育む会 第23回全国大会
東京大会記録集

平成21年8月8日～9日
國學院大學渋谷キャンパス



◇ 大会テーマ ◇

語り合おう胸のうち 子どもを真中に
親と先生がともに歩むために

第23回全国ことばを育む会全国大会

東京大会の記録



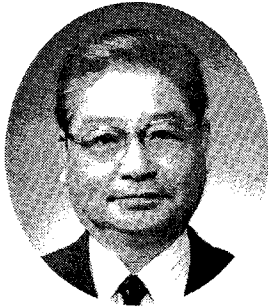
『語り合おう胸のうち

子どもを真中に

親と先生がともに歩むために』

をテーマに語り合い、交流を深めた2日間

お礼のことば



第23回全国大会東京大会 会長
NPO法人全国ことばを育む会理事長
土谷 さ と る

第23回全国ことばを育む会全国大会・東京大会が、多くの方々のご支援、ご協力によって、大きな成果をおさめて、終了できましたことに、心からの感謝とお礼を申し上げます。この全国大会が、全国言語障害児をもつ親の会として45年前に東京で産声を上げた当会が、NPO法人として会の一本化を果たした初の全国大会であったことは、私たちの無上の喜びとするところです。

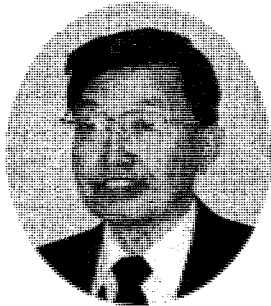
とりわけ東京での全国大会開催は、28年ぶりとなりますが、私たちの会が東京に久しく会の組織を確立しえていない中で、大会を成功させることが出来たのは、ひとえに、東京都の先生方、千葉県、群馬県、茨城県、栃木県の関東地方の各県親の会の大奮闘が在ったからであり、ここに重ねて御礼と感謝の気持ちを申し上げます。

あわせて大会開催のためにご協力、ご支援いただき、ご来賓としてご臨席いただいた文部科学省、東京都教育委員会、全国公立学校難聴・言語教育研究協議会、東京都難聴・言語教育研究協議会をはじめとする関係者のみなさん、会場をお貸しいただいた國學院大学の学長先生をはじめ関係者のみなさん、猛暑の中を全国から大会成功のためにご参加いただいた各道県「親の会」のみなさんや先生方に心からお礼を申し上げます。

大会は、この報告書にもあるとおり、当初の目的をほぼ達成して成功裏に終わることが出来ました。開会式の後の記念講演会では、中川信子先生から『ことばの力 ～分かり合い、分かち合うために～』と題して、人間が進化の過程で獲得した「ことば」のそもそもから説きおこし、子ども達の「ことば」に係る具体的な問題まで、わかりやすくおはなしいただきました。そして、その後の交流会では、会場が大学のキャンパスである利点を生かして、小さな教室をふんだんに使い、全部で14もの会場に分かれて、参加者全員の発言による「語り合おう胸のうち、子どもを真ん中に親と先生がともに歩むために」の大会スローガンにふさわしい交流となりました。また第一日目夜の懇親会は、國學院大学の若木タワー18階から東京・渋谷の夜景を一望する今までにない快適な集いが好評でした。2日目の体験発表は、これまでの大会が障がい別に分科会を組んできたやり方から、時系列的に子どもの成長に合わせて、幼児期 ⇒ 学齢期 ⇒ 進路 ⇒ 就労というテーマを設定して四人のお父さん、お母さんから報告していただきましたが、これも新しい試みとして好評でした。

終わりにになりましたが、猛暑の中、首都東京にご参集いただきました参加者全員のみなさんに感謝の気持ちを申し上げ、東京大会で学んだ成果や教訓を各地の運動にも生かしていただくこと、近い将来首都東京にも当会につながる会を組織することを誓って、ごあいさついたします。ありがとうございました。

心からの感謝をこめて



第23回全国大会東京大会実行委員長
NPO法人全国ことばを育む会理事長代行
加藤 碩

私たちの会が、東京で全国大会を開催するのは、28年ぶりのことであり、その間東京には、私たちの会につながる「親の会」の組織が長きにわたって、途絶えておりました。そのために東京での全国大会開催には当初様々な困難がつきまといました。そんな状況を跳ね除けて、大会開催のためにご協力、ご支援いただいた文部科学省、東京都教育委員会、全国公立学校難聴・言語教育研究協議会、東京都難聴・言語教育研究協議会をはじめとする関係者のみなさん、会場をお貸しいただいた國學院大学の学長先生をはじめ関係者のみなさん、猛暑の中を全国から大会成功のためにご参加いただいた各道県「親の会」のみなさんや先生方に大会実行委員会を代表して心から感謝の気持ちを込めたお礼を申し上げます。

東京での全国大会の開催を決意して準備してきた私たちの思いは、子育てで悩み、仲間を求めている東京のお父さん、お母さんとの交流を通して、その交流の絆をもっと太く大きなものにしたい、東京にも「親の会」を再建したいという強い思いからでした。この大会がその目的を達成する出発点となりつつあることを嬉しく思っている次第です。

この大会には、いくつかの特徴がありました。その第一は、この全国大会がNPO法人・全国ことばを育む会として、私たちの会が一本化した最初の全国大会だったということです。第二に、この全国大会は昭和39年8月に「東京文化会館」で会の前身「全国言語障害児をもつ親の会」が第一回全国大会を開催して以来45年目の節目にあたる大会になったことです。第三に、この大会はスローガン「語り合おう胸のうち、子どもを真ん中に、親と先生がともに歩むために」に示されているように、子ども達を取り巻く環境が、子ども達にとってのびのびと育っていくものになりにくい厳しさのもとで、子どもを中心として、親と先生がこの教育の充実のために力を寄せ合おうという願いが込められた大会になったことです。

今後の運動の中で、基調提案に示した「障がい児の福祉・教育をめぐる情勢」「子ども達の周辺」は、様々な面で厳しい状況があり、一人一人の子ども達が「自己評価」（自己肯定感）を育むことを困難にしています。それだけに子育てにかかわる親も大変な思いをしています。そんな時だからこそ「親同志が支えあう組織」の必要を訴えた大会であったと思います。

大会が採択した「大会宣言」は、今後の運動方針として5項目を提起していますが、最後の項目にある「親・親の会と先生との連携を強め、NPO法人全国ことばを育む会につながる組織を東京をはじめ、各地に広げます」の方針をしっかりと堅持して、会の大きな前進を切りひらいていきたいと決意しています。

二年後の次期大会は、中国ブロックの岡山県で開催されることが決まりました。岡山大会に、その成果を持ち寄りましょう。

大会成功へのご協力に重ねて心からの感謝をこめて、ごあいさついたします。

もくじ



お礼のことば	第23回全国大会東京大会会長 NPO法人全国ことばを育む会理事長 土谷さとる	2
心からの感謝をこめ	第23回全国大会東京大会実行委員長 NPO法人全国ことばを育む会理事長代行 加藤 碩	3
もくじ		4
ご来賓・表彰者のご紹介		5
大会要項		6
基調提案		8
大会宣言		10
大会スナップ		11
記念講演		12
300人を越える参加者全員が語り合った2日間		14
参加者の記録		15

ご出席いただいたご来賓

文部科学省初等中等教育局特別支援教育課視学官	穴戸和成様
全国特別支援教育推進連盟理事長	三浦和様
東京都教育庁指導部副参事	太田裕子様
東京都教育庁指導部義務教育特別支援教育指導課統括指導主事	中山ともえ様
全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会会長	岩谷力様
全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会事務局長	安部厚仁様
全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会顧問	奥山和宏様
東京都難聴・言語障害教育研究協議会会長	近谷幹男様
東京都難聴・言語障害教育研究協議会副会長	岡部ひとみ様
國學院大學文学部教授	田嶋一様
日本障害者協議会事務局長	中村喜長様
日本言語聴覚士協会会長	深浦順一様
全国言友会連絡協議会会長	綾部泰雄様

祝電をいただいた方

全国心身障害児福祉財団理事長	今泉昭雄様
----------------	-------

感謝状贈呈者・表彰者

感謝状贈呈者	静岡県浜松市立佐藤小学校教諭	中野泰子様
	山形県ことばを育む親の会	様
表彰者	前三重県ことばを育てる親の会長	杉谷彰一様
	前全国ことばを育む会東北ブロック長	
	前岩手県ことばを育む親の会長	臼澤弘泰様
	石川県ことばを育む親の会副会長	小森誠様

第23回全国ことばを育む会 全国大会東京大会要項

1 大会主題

「語り合おう 胸の内 子どもを真ん中に 親と先生が ともに歩むために」

2 大会趣旨

ひとりひとりのニーズに応じた指導・支援を充実させ、子どもたちの夢の実現に向けて、学び合い、熱い胸の内を語り、交流を深め、実りある2日間にしましょう。

3 主催 NPO法人全国ことばを育む会

茨城県ことばを育む親の会 栃木県ことばを育む親の会
群馬県ことばを育てる親の会 千葉県ことばを育てる会

4 共催 NPO法人全国ことばを育む会 北海道ブロック・東北ブロック・東海ブロック・北陸ブロック・近畿ブロック・中国ブロック・四国ブロック・九州ブロック

5 後援

文部科学省 厚生労働省 NHK 厚生文化事業団 東京都教育委員会 渋谷区教育委員会
全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会 関東難聴・言語障害教育研究協議会
東京都難聴・言語障害教育研究協議会 茨城県特別支援教育研究会難聴・言語教育部会
栃木県小学校教育研究会特別支援教育部会言語難聴班 群馬県特別支援教育研究会難聴・言語障害教育部会
千葉県特別支援教育研究連盟言語障害教育研究部会 神奈川県難聴言語障害教育研究協議会
埼玉県特別支援教育研究会難聴・言語障害教育部会

6 期日 平成21年8月8日(土)～9日(日)

7 会場 國學院大學渋谷キャンパス (〒150-8440 東京都渋谷区東4-10-28)

8 日程

【第1日目】8月8日(土)

12:00～12:50	13:00～14:00	14:15～16:00	16:15～17:30	18:00～20:00
受付	開会行事	記念講演	交流会	懇親会

【第2日目】8月9日(日)

9:00～9:20	9:30～11:00	11:15～12:30
受付	体験発表	分科会

【第1日目 8日(土)】

記念講演

講師 中川 信子 先生

(言語聴覚士・子どもの発達支援を考えるSTの会代表)

演題『ことばの力—分かり合い、分かち合うために—』

交流会 小グループに分かれ、記念講演を基にして交流しましょう。

【第2日目 9日(日)】

体験発表

幼児(学齢前)の子育て	発表者 吉田 靖子(岩手県)
学校生活の中で	発表者 国本 文子(東京都)
子どもたちの進路を考える	発表者 根目沢浩幸(茨城県)
就労を考える	発表者 田辺 昭夫(岡山県)

分科会 体験発表を基に、学び合い語り合しましょう。

第1分科会	幼児(学齢前)の子育て
第2分科会	学校生活の中で
第3分科会	子どもたちの進路を考える
第4分科会	就労を考える

9 展示会 8日(土) 12:00～17:50 9日(日) 9:00～13:00

展示 : 会報『ことば』表紙絵の原画展・バックナンバー

販売 : 両親指導の手引書 書籍 表紙絵はがき・原画

10 懇親会

懇親会会場 : 國學院大学 若木タワー 18階 有栖川宮記念ホール

第23回全国大会東京大会基調提案

NPO法人 全国ことばを育む会理事長代行
加藤 碩

1, はじめに

私たちは、私たちの会の前身「全国言語障害児をもつ親の会」が創立して45年目の今年、28年ぶりに東京で全国大会を開催します。この大会は、NPO法人・全国ことばを育む会として一本化した初の全国大会であり、東京のお父さん、お母さんや先生方との絆を大きくし、この大会の成功を大きなステップとして、東京に「親の会」を再建する足がかりを作る大会と位置付けて準備を続けてきました。大会がNPO法人全国ことばを育む会の今後の発展の画期となることを誓い合いたいと思います。

2, 障がい児の福祉・教育をめぐる情勢と子ども達の周辺

1981年に始まった「国際障害者の10年」をへて、障がい者の社会への「全面(完全)参加と平等」を求める運動は大きく高まり、障がい児の福祉・教育は大きく、豊かに発展してきました。国際的には2006年に「障害者権利条約」が国連総会で全会一致採択され、日本国内の批准も間近です。国民の社会生活全般にわたっていっさいの差別をなくし、障がい者の生活と権利を保障していくことが財政的、人的な制約を持ちつつも当然のこととして受け入れられるようになりました。

障がい児の教育では、「特別支援教育」が今年で三年目を迎えて、従来の身体障がい児、知的障がい児、精神障がい児に加えて、発達障がい児を教育の対象として大きな広がりを作っています。平成16年に「発達障害者支援法」(平成20年一部改正)が制定され、その第2章で「児童の発達障害の早期発見及び発達障害者の支援のための施策」が明確にされたことによるものです。

このような社会全体の障がい者観の発展や「特別支援教育」の望ましい理念の確立の一方で、障がい児とその家族の願いに十分に応えるだけの条件整備はけっして十分とはいえません。全国各地に通級指導教室はかなりの速度で設置されていますが、先生はこの教育に未経験な非常勤職員に頼っているところがたくさんあります。また、「障害者自立支援法」で利用者に一割の応益負担を課すなど、作業所など小さい福祉施設の存立が危うくなっています。

その主な原因は、第一に国や地方自治体の財政が貧しく、先生や職員の配置、障がい者施設や学校への条件整備が満足に進んでいないこと、第二に「百年に一度」といわれる世界的な経済危機のもとで、一般の人々にとっても就職が困難な中で、障がい者の「就労」はますます困難となっていること、などです。

一方、子ども達を取り巻く環境は、すべてを競争に委ねる新自由主義的な風潮のもとで、様々な面でハンディキャップをかかえた子ども達の毎日を「生き難い」ものにし、一人一人の子ども達が「自己評価」(自己肯定観)を育むことを困難にしています。子育ての展望を失った若いお母さんが、幼い子どもを殺めたり、逆に思春期・青年期の子どもが親の命を奪ったりという悲劇が後を絶ちません。

こうした厳しい社会環境の中で、親達も「子育てがうまくいかない」「いかにして子ども達の良さを評価し、伸ばしていくか」「こどもたちに安心感を与える毎日をどう作っていくか」で悩み、その悩みを如何に解決するかを切実に求めています。

3, 私たちの会の歩み、今後の展望

私たちは、子ども達をめぐる環境が厳しいからこそ「親の会」を作って、悩みを一人ぼっちで抱え込まずに、グチをこぼし合い、慰め合い、励まし合って今日まで45年間活動を進めてきました。「慰め合い、励まし合い」こそが親の会の原点といえます。そしてその活動の側に、いつも子ども達の教育を担当する先生方の暖かい眼差し、懇切な支援がありました。

私たちの会の前身「全国言語障害児をもつ親の会」は、今から45年前（昭和39年）の8月東京で産声を上げました。この時を前後して、各都道府県に「親の会」が結成されていきました。東京都の「親の会」の結成は、昭和37年（1962年）10月26日だと記録されています。全国と各地の親の会の結成を導いたのは、どこでも当時出来たばかりの「ことばの教室」の先生方の熱心な援助でした。結成間もない「親の会」は、当時まだ学校教育法など教育関係法令に明記されていない「通級」を制度化するために、各地の教育委員会と熱心な話し合いを繰り返し、「通級」の制度化、法制化実現のために奮闘するとともに、各地に「ことばの教室」「きこえの教室」設置の要求を掲げて、実現を図ってきました。

親・親の会と先生との関係は、今日では「子どもを真ん中に親と先生が三人四脚で一歩一歩すすもう」という合言葉となっています。全国の活動は、多面的でその地方によって違いもありますが、活動がうまく進み、会員が拡大している会の特徴は、①親の会と先生との関係がスムーズにしていること ②会員の悩みや要求が会の活動によく反映していること ③「ことば」や「両親指導の手引き書」でよく学び合っていること が共通しています。

今後の活動を展望する上でも、この三点を踏まえた活動が求められます。また「特別支援教育」が全面的に展開するなかで、会の構成や活動を障がいの種別や程度で区別しないこと、幼児期 ⇒ 小・中学校の時期 ⇒ 後期中等教育・高等教育 ⇒ 就労の時期へと「縦の連携」を考えていくことなどが課題です。

4, 全国大会東京大会の運営の基調

以上のことから全国大会（東京大会）の特徴をふまえ、運営の基調を次のように進めることにしました。

第一は、参加したお父さん、お母さんを主人公に、ざっくばらんに「肩肘張らないで」参加していただくことにしました。そのために第一日目の交流会は、講師の中川先生のお話をうかがった後、15～20人程度の小さなグループに分かれて、参加者全員が思いを話せる会にしたいと考えています。大会のスローガン「語り合おう胸のうち、子どもを真ん中に、親と先生がともに歩むために」にそって、楽しく話し合い、ここに来てよかったと思える集いをすすめていただきたいのです。

第二は、二日目の体験発表と分科会の考え方です。例えば前大会（山形大会）では、子どもの障がい別に分科会が設けられ、各分科会ごとに報告者と助言の先生が配置されました。今回は障がいの種別にこだわらず、子どもの成長をたどって、幼児期の子育て ⇒ 学校生活の中で ⇒ 子どもの進路を考える ⇒ 就労を考える と縦の関係に焦点を当て、参加者全員で4人の報告者の体験発表を聞いた上で、希望の分科会に分れてもらうことにいたしました。各分科会も15～20人程度で、参加者全員の発言が可能な運営にいたしました。

二日間の短い時間ですが、この大会を通して東京、神奈川、埼玉など首都圏にお父さん、お母さんの新しい運動が芽吹き、NPO法人・全国ことばを育む会の大きな飛躍に繋がることを期待するものです。

大会宣言

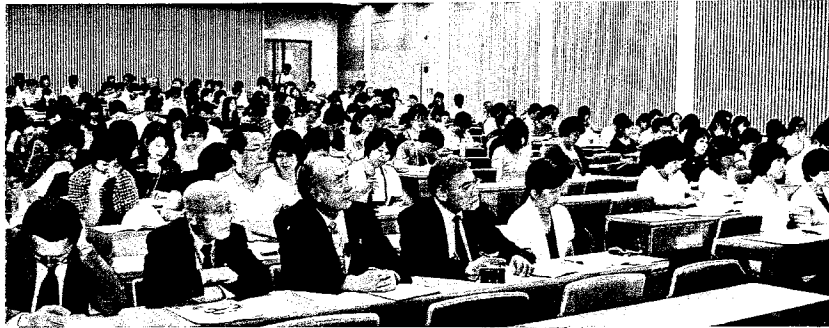
NPO法人全国ことばを育む会は、会創設45周年の記念の年に創設の地東京において、第23回全国大会をひらきました。私たちは、この45年間ことばやきこえの不自由な子ども達の教育の制度確立と充実のために力をつくしてまいりました。

平成19年度からの「特別支援教育」の本格実施によって、発達に障がいのある子ども達へも対象を広げ、一人一人の教育的ニーズに応じた支援がすすめられ、今年で3年目に入りました。私たちは「特別支援教育」の制度的充実を心から歓迎し、教育の更なる発展のために、大会スローガン「語り合おう胸のうち、子どもを真ん中に、親と先生がともに歩むために」に示された精神を生かして、全国各地で先生をはじめ関係者と力をあわせて奮闘します。

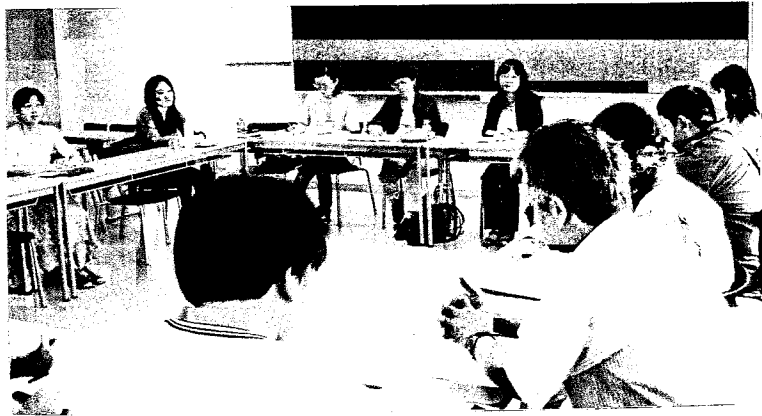
- 特別支援教育の充実を目指し「だれでも、いつでも、どこでも適切な教育を」受けられる体制を全国のすみずみに確立するために活動を強めます。
- 担当の先生を必要なだけ増やすとともに、先生の専門性を高める研修の充実と働きやすい環境作りをめざします。
- とくに今後の充実が求められている「学齢前の幼児の福祉と教育」「学校卒業後の子ども達の進路と就労」の施策の充実のために活動を強めます。
- 保護者、教育、福祉、医療の連携を強め、地域の子育て活動の充実のために活動を強めます。
- 親・親の会と先生との連携を強め、NPO法人・全国ことばを育む会につながる組織を東京をはじめ、各地に広げます。

平成 21 年 8 月 9 日

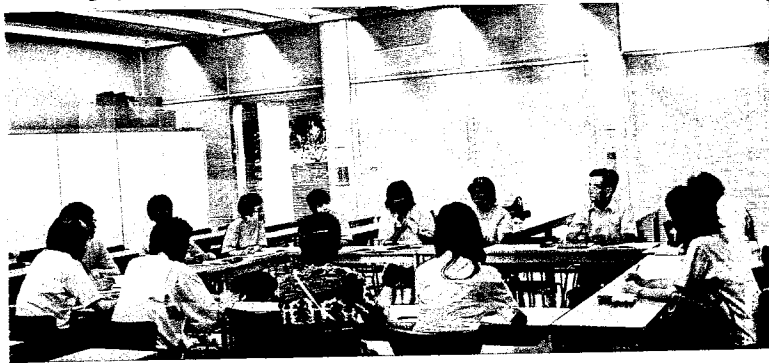
特定非営利
活動法人 全国ことばを育む会全国大会東京大会



会場を埋め尽くした参加者



少人数の交流会・分科会で全参加者が発言（上下）



体験発表者

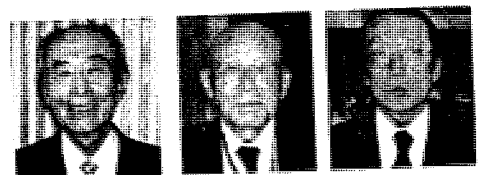


吉田さん (岩手) 国本さん (東京) 根目沢さん (茨城) 田辺さん (山形)
 幼児期の子育て 学校生活の中で 進路を考える 就労を考える



・中野先生(静岡) ・山形県親の会(武田会長)

感謝状贈呈者



日澤さん(岩手) 杉谷さん(愛知) 小森さん(石川)

表彰者

ことばの力 ～分かり合い 分かち合うために～

子どもの発達支援を考えるSTの会代表 中川信子先生

旭出学園で学んだこと

私は、教育学部の教育心理学科の卒業生です。三木安正先生という、戦前から戦後にかけて、障害のある



子どもの教育と、幼児教育を車の両輪のように二本立てで研究され、練馬区にある旭出学園の創設者の一人でもある方の元で学びました。

この旭出学園というのは、昭和25年に知的障害のある子どものための教育を実践するために開設された学校で、当時は「就

学猶予」という制度があって、知的障害のあるお子さんは、学校に行く権利を奪われていた時代ですから画期的なことで、小学部から始まり、中学部・高等部・生産部・福祉園と、必要に応じて施設を積み重ねられていきました。

学生の頃に、この旭出学園で学んだことは、障害があっても幼児期からその子のペースに合わせて育てていけば、すてきな大人になるということです。

18歳で高等部あるいは高校を卒業後、約60年の人生があります。その60年の人生を幸せで充実したものにするためには、その前の18年が極めて大切だということでした。

障害とは支援を必要とする個性

特別支援教育が始まったことと、発達障害者支援法ができたことがきっかけで、世の中が大きく変わってきたと感じています。

授業中の個別配慮の実践が増えてきていますし、助

け合いながら皆一緒にやっという考え方に世の中が動いていくという実感があり、「障害は支援を必要とする個性」ですから、このような変化を大きな喜びをもって歓迎しているところです。

教育で教えるべきは、「頭で知る」ことではなく、「わかっていて、できる」ということを増やしていくことだと思います。更に、「できなかったら頼む」というのが特別支援教育の理念です。

支え合うことの大切さ

きこえとことばの教室に通い始めると、同じ立場の仲間ができてホッと、「一緒にやりましょう」というスタッフや先生たちがいて、支えられる経験をします。でも実は、支えあっていることでもあります。

支え合って生きることが人間の本来あるべき姿なのではないでしょうか。この大会の「語り合おう、子どもを真ん中に親と先生が共に歩むために」のテーマのように、親の会の存在は大切だと思います。

講演のテーマの「わかり合う」というのは、「互いにわかったことを確認し合う・共有する」こと。「分かち合う」というのは、英語では **SHARE WITH** 「一緒に」がつきます。

子どもの最善の利益のために事実に基づく「ことばや発達の問題」について「わかり合う、分かち合う」ために必要なのは、「正確な理解を他人と共有する」「知識を対等な立場で共有する」ことです。

早期教育では、保護者や療育機関が、子どもの実態や障害、発達についての知識を共有し、保護者は、その子が通う園や学校、通常の学級や通常の保育園や幼稚園に向いて先生たちと話し合っ知識を共有し、園や学校は専門機関とつながり、ネットワークが対等な立場で成立し、子どもの成長に伴って次の機関に引き継がれことにより、地域で安心して暮らせるようになると思います。

ことばを育てるためには

「ことば」にいての知識を整理してみたいと思いま

す。コミュニケーションの手段であり、考えるための手段・道具であり、行動調整のためのツールです。

もう少し具体的にいうと、「言えることば＝音言語」「わかることば＝概念・コミュニケーション意欲・気持ち」ということで、身辺自立・お手伝いをさせ、自然な関りの中でゆっくり豊かなことばかけをし、わかることば・伝えたい気持ちを育てることが、一番大切なことです。

ことばを話す仕組み

ことばを話す仕組みに関して、お話をします。息を吸って息を吐くときに声帯を震わせ、声帯から出た音を口から出すとき、鼻とのどの隙間を閉めるため、上顎の軟口蓋をぎゅっと持ち上げてふたをして、息が鼻に漏れないように、そして舌や唇を使って発音をします。

それらが勝手に動くのではなく、脳の中の言語をつかさどる部分に関わっています。その部分は基本的に脳の左側にあり、そのすぐ横には、喉・舌・顎・唇を動かす、声を出すという場所があり、そのすぐ下に右手を動かす場所があります。

大脳というのは、表面に豆電球がびっしりと並んでいて、それに長い電線が最低1本つながっているというイメージです。

ことばについての脳は、中枢神経系という括りでは大きく分けて脳幹と辺縁系と大脳と考えられます。

大脳辺縁系とか脳幹という場所は、基本的に電線が束になって通っている場所です。耳の左側にことばをつかさどる場所があるわけで、この辺の電線につながり電球が光ればことばが話せたり、後ろの方の電線に電気が流れれば、ことばが理解できたりするということです。

その部分をうまく機能させるためには、結論を先にいうと「諺を守った生活をする」です。「めざせ！諺生活」です。「早起きは3文の得・寝る子は育つ・よく遊びよく学べ」、これが脳幹の一番下の電線に対応します。

第2段階、大脳辺縁系という電線に対応には「好きこそ物の上手なれ・ほめて育てよ」です。「ことばで教える・ことばを教える」という場合でも、見える・聞こえるという信号は必ず脳幹と大脳辺縁系という場所を通らなければなりません。脳幹という場所はこういう状態のときに電気の通りがよいかというと、体が健康である・規則正しい生活をしている・きちんとした睡眠をとっているときです。

第2段階の大脳辺縁系は感じる脳で、やる気をおこ

す本能的に役に立つか立たないかを判断する・記憶をコントロールするという働きです。

辺縁系の電気の通りがよいのは、楽しい・うれしい・好きと思う・やってみたいと思う・前向きな気持ち・認めてもらうという実感があるときです。

この辺縁系は、海馬という記憶のコントロールセンターであり「楽しい」ときは何でも覚えられるし、いやいややった勉強はなかなか覚えられないということになります。

障害があろうとなかろうと、人類というのは基本的に共通の組成をもっていますので、望ましい育て方というのは、すべての子どもに共通です。体が元気で、心が健やかで、安定安心が守られていること＝大脳辺縁系が落ち着いた状態の暮らしをすることです。

安心安定した暮らしが大切

発達障害のある子、ことばを含めた難聴のある子どもたちに、どう接したらいいかを考えたいと思います。

元々の問題は、ちょっとしたことなのに、落ち着かなかつたり、ことばがうまく言えないことなどで叱責され、心理的にストレスがかかって更に困りごとが増えていくことになります。みんなと一緒にさせようとして「どうしてできないの」と叱責するのではなく、「ゆっくりでもいいから着実にやれるようにしようね」というスタンスで考えてあげることができれば、心が傷だらけの子にならずにすむと思います。

発達障害は、特段「根性の曲がっている」「親の育て方が悪い」ということではなく、そのような脳の特性を持って生まれてきた子どもたちなのですから、そこをまず認め、その中でどうしたらよい大人に育つかということだけを考えればよいと思います。

体が元気で、心が健やかで安定安心した暮らしをすればいいのです。

育児は自然体で

最後に、こどもの育ちをどう支えるかにいてですが、育つのは子どもです。子ども自身の力で育ちます。その育つ力を上手に支えてくれる人たちが、一人ではなく、2人3人といるように育てましょう。

あんまり行き届き過ぎると手の出しようがなくなりますから、20歳になったときに「いろいろあるけど、まあ親子でよかったね」って言える程度に力を抜いて、「なるようになるさ」と育てていけばいいのです。

周りの大人が見るに見かねて手を貸してくれたりします。駄目な親でいいので、笑顔がたくさん、自然に生きられて親も子も成長できるかなと思います。

300人を越える参加者全員が 語り合った2日間（参加者の感想）

講演会

★ 良かったです。ことばは大切なものだと、つくづく考えさせられました。子ども（小学3年男子アスペルガー）の心の安定が必要なこともわかりました。他の子と違ってても元気であればそれでいいのだと思いました。幼稚園からずっと休まず登園登校できたことは子どもにとってすごいことだったなと思いました。（千葉県）

★ 子育て14年間を通して、1年目に聞く話と5年目に聞く話と今聞く話しでの受け取り方、感じ方はずいぶん違っていると思いました。納得したのは基本の生活ができた上での積み上げしかなないということを実感した次第です。

（熊本県）

★ 中川先生のお話はいつ聞いても飽きさせないお話で、今日特に覚えていようと思ったことばは“障害とは支援を必要とする個性である”。“障害とは個性である”という人がいるが「おい、それだけか？」とつっこみたい私にとって“支援を必要とする”ということばを足したことでストーンと胸におさまった。

★ 子育て真っ最中です（小学2年、5年）。頭ではわかっているもついつい毎日手も口も出している現状です。ですが、先生の講演を聞き、改めて「子育てをさせてもらっている楽しさ」を感じました。とは言え、すぐに優しくニコニコしているお母さんに、というのは無理ですが、少しずつでもまず、子どもの話しを聞けるお母さんになろうと思います。

（岩手県）

★ いろいろなお話があり、家に帰ってもう一度思い返したいです。基本的な生活を大事にして

暮らすことが大切なんですね。改めて思い直しました。（千葉県）

交流会

★ 個々の悩みを聞くことができ、自分だけではないと思って少しホッとした気持ちになりました。あと、小学校→中学校→高校という入れ替りの中での心配事を聞けて良かったです。自分のこれからのためになりました。

★ 普段悩んでいることなどを話し、いろいろアドバイスを頂きました。

★ 参加人数が少なく初めは不安でしたが、胸のうちを話せたと思う。主に親の会設立などの話が中心になった。少人数での話し合いもいいもんだと感じた。

★ 4月から日々のことに追われ、自分のことで手一杯の状態でしたが、この会に参加させてもらい、保護者の方とのつながりがとても大切だと感じ、様々な地域の様子や保護者の方の声を聞くことができ勉強になりました。

親の会についても、ある所ない所があると知り驚いています。自分の住んでいる地域のこともっと目を向け、全国の実情を知りながら、よりよい会になるよう協力できればと思います（岡山県）

★ 各県の方のお話を聞いて、様々な取り組みを知ることができました。ことばの教室を立上げた方々の苦勞などを伺うと、子ども達のためにの気持ち一心だということがよくわかりました。自分自身も改めて子どもに対する考え方、接し方を見直しながらいこうと思いました。

体験発表

- ★ 4人とも良かったが、田辺さんのアツイ思いが伝わった。私も父として頑張らなければと反省させられた。(青森県)
- ★ 体験発表を聞きながら自分の子育てと重ねて、胸が熱くなりました。今日まで私なりに我が子と向き合ってきたつもりで、特に子どもを取り巻く環境には配慮してきたと思い込んでいましたが、周りの人に理解してもらおうという点については努力がたりないなあと思いました。(島根県)
- ★ どの発表もとても素晴らしかったです。保護者の方の実体験をことばを通して聞くという貴重な機会を得られ、とてもありがたいと思いました。就学前の支援体制、ことばの教室のアピールの必要性を感じました、就労を考えた子どもの支援を保護者の支援と共にしていきたいと思うし、保護者からお子さんのことについて学び続けたいとおもいました。(東京都)
- ★ 育てにくさをもった子どもを育てた親だからこそ経験していた貴重なお話を聞いて共感したり、またこれから先にぶつかるであろう課題や子どもの姿、親としてできることなど、今の私にとっては何もかもが必要で聞きたいと求めていたことでした。地域のもっとOBからお話を聞く機会を作っていきたいと思います。(千葉県)
- ★ 子どもの進路を考える場合、子どもの能力な度を考える必要があると思うが、具体的には、子どもの幸福を考え、社会への働きかけ、行政への働きかけをしていくことが必要だと考えます。会としてどうすべきなのかを、具体的に対策を。障害者自立支援法の廃止、または改正を働きかける必要もある。
- ★ 大先輩のお話をたくさん聞けたし、各都道府県の様子も聞くことができました。ことばを育む会のみならず、他の親の会とも連携を取りながら、我が子の将来のために行政に声をあげていく……。大事なことではないでしょうか。(徳島県)
- ★ 難聴の成人の保護者の方もいて、意見を聞いてよかった。立ち止まり、深呼吸をして、子どもと向き合える機会を作ることができました。(熊本県)
- ★ 通級のあり方などについて、要望を親のわがままかな……。?とあきらめていた部分について勇気が持てました。よりよい支援を求めたい。これからも県をまたいでエールを送り情報を分け合いたい。(群馬県)
- ★ 障害は違えども、同じ悩み(家庭内のこと)を持っているのだと思い、やっぱりそれぞれにご苦労がおありなんだということがわかりました。お父さま方!!ご自分のお子さんのことです。仕事に逃げず、今しかできないことに目を向けてください!!と強く思いました。(東京都)
- ★ 最後に大会のスローガンで意図したようなまどめになりました。現システムを子どものニーズに合うように作り替える。そのための努力を親たちがしていくこと(各地の状況に合わせて)が確認できました。
- ★ 各地域の状況を知ることができ大変参考になりました。高校の特別支援教育には、具体的にどのようなことが必要なのか、課題だと思いません。(福岡県)

分科会

- ★ 大先輩のお話をたくさん聞けたし、各都道府県の様子も聞くことができました。ことばを育む会のみならず、他の親の会とも連携を取りなが

全国大会東京大会参加者総数 322名

◇◇◇◇ブロック別参加者数◇◇◇◇

北海道	6名	東北	35名	関東	217名
東海	21名	北陸	4名	近畿	0名
中国	14名	四国	9名	九州	5名

◇◇◇◇関東ブロック内訳◇◇◇◇

栃木	31	茨城	19	群馬	16	埼玉	11
千葉	77	東京	49	神奈川	14		

第23回 特定非営利
活動法人 全国ことばを育む会全国大会
東京大会記録集

発行日 平成 22 年 2 月 1 日
編集者 全国ことばを育む会全国大会東京大会実行委員会
発行者 特定非営利
活動法人 全国ことばを育む会
〒160-0051 東京都新宿区西早稲田2-2-8
全国心身障害児福祉財団ビル3F
TEL・FAX 03-3207-7182
代表者 特定非営利
活動法人 全国ことばを育む会理事長 土谷 さとる

くわしくは、本会のホームページ上に掲載しております。
<http://www.npokotoba.jp/>

